

科目名 Subject Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
在宅介護論 Practice of Home-Care		2年	前期	時間割参照
単位数	授業の形態		授業の性格	
2単位	講義		選択	
当該科目の理解を促すために受講することが望まれる科目				
「社会の理解Ⅱ」または「高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅰ」				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
特記なし				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー	電話番号・メールアドレス	
新井文子	福祉棟2階	初回授業にて説明	授業中に指示します	
授業の概要				
在宅で生活している要介護高齢者の状況および生活ニーズを把握し、在宅介護の意義と必要性を学ぶ。また、新聞記事から介護に関連する事例を取り上げ、自己の捉え方をまとめ発表することで、在宅介護に関する視野の拡大を図る。そして、在宅介護を担うための職業倫理や適性および知識を学ぶ。さらに、市町村における在宅介護サービスの種類を把握し、その必要性について理解する。				
授業の到達目標				
①在宅介護の意義と必要性を理解できるようにする。 ②介護の定義や原則を理解し、在宅介護に必要な知識を習得できるようにする。 ③訪問介護員としての職業倫理および適性を理解できるようにする。 ④在宅支援体制を把握できるようにする。				
授業の方法				
講義科目であるが、演習も取り入れる。新聞記事から事例を取り上げ、自己の捉え方をまとめ、毎時間の最初に発表する。さらに学生の居住地域の公的介護サービスを調べ、発表する。				
学習の成果				
①在宅介護の意義と必要性を理解することができる。 ②介護の定義や原則を理解し、在宅介護に必要な知識を習得することができる。 ③訪問介護サービスにおける職業倫理および適性を理解することができる。 ④居住地域の在宅支援体制を把握することができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス（シラバスにそって） 新聞記事の事例のまとめ方について			
第2回目	介護概論① 介護の歴史、介護の定義、介護と看護の相違点			
第3回目	介護概論② 要介護高齢者および介護の特性、在宅における介護の視点および施設介護との相違点			
第4回目	訪問介護サービス概論① 訪問介護の実際 視聴覚教材「こんにちは ホームヘルパーです」（レポート1）			
第5回目	訪問介護サービス概論② 在宅介護支援体制と実際			
第6回目	訪問介護員の職業倫理① 在宅生活を支える訪問介護サービス、訪問介護サービスの社会的役割			

第7回目	訪問介護員の職業倫理② 専門職としての心得および適性、ホームヘルパー憲章および他職種の倫理綱領		
第8回目	訪問介護員に必要な知識および技術 創意と工夫の必要性		
第9回目	在宅支援体制の実際① 居住地区の在宅介護支援体制（介護保険外サービス）の調べ方およびまとめ方等		
第10回目	在宅支援体制の実際② グループワーク		
第11回目	在宅支援体制の実際③ 発表		
第12回目	在宅支援体制の実際④ 発表、まとめ（レポート2）		
第13回目	終末期の在宅介護① ターミナルケアとグリーフケア		
第14回目	終末期の在宅介護② 在宅死に関するグループワークと発表（レポート3）		
第15回目	まとめ（試験レポート提出日）		
成績評価の方法と基準			
	評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	20%		担当日に新聞記事の発表が適切に行える。個人ワークを自主的に行いグループワークに臨んでいる。
レポート	30%		提示する項目について適切にまとめられている。 ①視聴覚教材後の学び ②居住地区の在宅介護支援体制調べ ③在宅死に関するグループワーク
調査報告書			
小テスト			
中間・学期末試験	50%		授業の内容を中心に、在宅介護の意義と必要性に関するレポート形式である。提出日の約1か月前に提示する。提示された内容に対してまとめ、自己の捉え方を明確に記述している。
発表内容（態度含む）			
その他			
教科書と参考図書			
適宜、印刷物を配布する。参考図書については授業内で紹介する。			
履修上の心得・ルール			
選択科目であるから目的意識をもち、講義、演習ともに積極的に取り組み、新聞やテレビ番組等から福祉関連に目を向け、介護に関する理解を深めてほしい。			